

古文「活用形6種」識別 100題ドリル

対象：高校生・大学受験生 | 著作権：誰でも古典塾 (kotennosensei.com) 無断転載禁止

はじめに

古文文法の土台が**活用形6種**です。傍線部の用言（動詞・形容詞・形容動詞）が、**未然・連用・終止・連体・已然・命令**のどれかを答えます。見分けのカギは、ほぼ「直後にどんな語が続くか」で決まります。

記号	活用形	主な目印（直後に続く語）
ア	未然形	ず・む・じ・ばや・ば（もし～=仮定）
イ	連用形	て・つ・ぬ・たり・けり・き・つつ／用言に続く
ウ	終止形	べし・らむ・らし・まじ・なり（伝聞）・。（言い切り）
エ	連体形	体言（名詞）・なり（断定）／係助詞ぞ・なむ・や・かの結び
オ	已然形	ば（～ので=確定）・ど・ども／係助詞こそその結び
カ	命令形	文末で命じる（行け・見よ 等）

鉄則：活用形は**直後の語が決める**。「ず」が続けば未然、「て・けり」なら連用、「。」なら終止、名詞が続けば連体、「ば（確定）・ど」なら已然、命令の言い切りなら命令。

🎯 解き方のコツ

1. **直後の語**をまず見る（上の表）。
2. **四段は終止形と連体形が同じ形**（行く）。「。」なら終止／名詞が続けば連体。
3. **未然+ば=仮定（もし）**／**已然+ば=確定（～ので）**。四段は形が違う（行か／行け）ので形でも判別できる。
4. **係り結び**：ぞ・なむ・や・か → 結びは**連体形**。こそ → 結びは**已然形**。

採点表

部	問題	目標
第1部 基礎	Q1～Q20	18／20
第2部 標準	Q21～Q50	24／30
第3部 応用	Q51～Q80	21／30
第4部 入試	Q81～Q100	14／20

【第1部】基礎 (Q1～Q20)

Q1. 次の傍線部「咲か」の活用形は、ア～カのどれか。

春浅く、花はいまだ**咲か**ず。 **答え：ア** **解説**：直後が打消「ず」。未然形（四段「咲く」未然）。

Q2. 次の傍線部「行き」の活用形は、ア～カのどれか。

友のもとに**行き**て、もの語らふ。 **答え：イ** **解説**：直後が接続助詞「て」。連用形（四段「行く」連用）。

Q3. 次の傍線部「鳴く」の活用形は、ア～カのどれか。

暁、いづくにか鳥**鳴く**。 **答え：ウ** **解説**：文末で言い切り。終止形（四段「鳴く」終止）。

Q4. 次の傍線部「散る」の活用形は、ア～カのどれか。

風に**散る**花を惜しむ。 **答え：エ** **解説**：直後が体言「花」。体言を修飾するので連体形。

Q5. 次の傍線部「吹け」の活用形は、ア～カのどれか。

風**吹け**ば、波いたう立つ。 **答え：オ** **解説**：直後が「ば」で「風が吹くので」の確定。已然形（四段「吹く」已然）。

Q6. 次の傍線部「行け」の活用形は、ア～カのどれか。

「とく行け」と、せきたつ。 答え：カ 解説：文末で命じている。命令形（四段「行く」命令）。

Q7. 次の傍線部「書か」の活用形は、ア～カのどれか。

返り事を書かむ。 答え：ア 解説：直後が意志の「む」。未然形（四段「書く」未然）。

Q8. 次の傍線部「上り」の活用形は、ア～カのどれか。

男、京に上りけり。 答え：イ 解説：直後が過去「けり」。連用形（四段「上る」連用）。

Q9. 次の傍線部「あり」の活用形は、ア～カのどれか。

昔、世になき宝あり。 答え：ウ 解説：文末で言い切り。終止形（ラ変「あり」終止）。

Q10. 次の傍線部「行く」の活用形は、ア～カのどれか。

都へ行く人に、文を託す。 答え：エ 解説：直後が体言「人」。連体形（四段「行く」連体。終止と同形だが体言が続くので連体）。

Q11. 次の傍線部「咲け」の活用形は、ア～カのどれか。

梅は咲けど、まだ寒し。 答え：オ 解説：直後が「ど」。已然形（四段「咲く」已然）。

Q12. 次の傍線部「見」の活用形は、ア～カのどれか。

その文を、まだ見ず。 答え：ア 解説：直後が打消「ず」。未然形（上一段「見る」未然）。

Q13. 次の傍線部「落ち」の活用形は、ア～カのどれか。

木の葉、はらはらと落ちて、地に積もる。 答え：イ 解説：直後が「て」。連用形（上二段「落つ」連用）。

Q14. 次の傍線部「す」の活用形は、ア～カのどれか。

いかにも**す**べし。 答え：ウ 解説：直後が当然の「べし」。終止形（サ変「す」終止）。

Q15. 次の傍線部「する」の活用形は、ア～カのどれか。

涙もよほ**す**するわざなり。 答え：エ 解説：直後が体言「わざ」。連体形（サ変「す」連体「する」）。

Q16. 次の傍線部「見れ」の活用形は、ア～カのどれか。

月を**見**れば、心すずろなり。 答え：オ 解説：直後が「ば」で確定（見ると）。已然形（上一段「見る」已然）。

Q17. 次の傍線部「見よ」の活用形は、ア～カのどれか。

「これを見**よ**」とて、さし出づ。 答え：カ 解説：文末で命じている。命令形（上一段「見る」命令）。

Q18. 次の傍線部「受け」の活用形は、ア～カのどれか。

恩を**受**けて、忘れず。 答え：イ 解説：直後が「て」。連用形（下二段「受く」連用）。

Q19. 次の傍線部「死ぬ」の活用形は、ア～カのどれか。

老いては、やがて**死**ぬ。 答え：ウ 解説：文末で言い切り。終止形（ナ変「死ぬ」終止）。

Q20. 次の傍線部「静かなる」の活用形は、ア～カのどれか。

いと**静**かなる夜なり。 答え：エ 解説：直後が体言「夜」。連体形（形容動詞「静かなり」連体「静かなる」）。

【第2部】標準 (Q21～Q50)

Q21. 次の傍線部「思は」の活用形は、ア～カのどれか。

さらにかくとは**思は**ざりき。 **答え：ア** **解説：**直後が打消「ず（ざり）」。未然形（四段「思ふ」未然）。

Q22. 次の傍線部「立ち」の活用形は、ア～カのどれか。

露おきて、草**立ち**たり。 **答え：イ** **解説：**直後が存続「たり」。連用形（四段「立つ」連用）。

Q23. 次の傍線部「高し」の活用形は、ア～カのどれか。

この山、いと**高し**。 **答え：ウ** **解説：**文末で言い切り。終止形（ク活用形容詞「高し」終止）。

Q24. 次の傍線部「高き」の活用形は、ア～カのどれか。

いと**高き**山に登る。 **答え：エ** **解説：**直後が体言「山」。連体形（形容詞「高し」連体「高き」）。

Q25. 次の傍線部「高けれ」の活用形は、ア～カのどれか。

山**高ければ**、道けはし。 **答え：オ** **解説：**直後が「ば」で確定（高いので）。已然形（形容詞「高し」已然「高けれ」）。

Q26. 次の傍線部「来」の活用形は、ア～カのどれか。

人いまだ**来**ず。 **答え：ア** **解説：**直後が打消「ず」。未然形（カ変「来」未然「来（こ）」）。

Q27. 次の傍線部「来」の活用形は、ア～カのどれか。

昨日、客**来**たりき。 **答え：イ** **解説：**直後が完了「たり」。連用形（カ変「来」連用「来（き）」）。

Q28. 次の傍線部「来」の活用形は、ア～カのどれか。

春は必ず来。 答え：ウ 解説：文末で言い切り。終止形（カ変「来」終止「来（く）」）。

Q29. 次の傍線部「来る」の活用形は、ア～カのどれか。

今来る人を待つ。 答え：エ 解説：直後が体言「人」。連体形（カ変「来」連体「来る（くる）」）。

Q30. 次の傍線部「来れ」の活用形は、ア～カのどれか。

使ひ来れば、文を取る。 答え：オ 解説：直後が「ば」で確定（来たので）。已然形（カ変「来」已然「来れ（くれ）」）。

Q31. 次の傍線部「過ぎ」の活用形は、ア～カのどれか。

月日はやく過ぎて、年暮れぬ。 答え：イ 解説：直後が「て」。連用形（上二段「過ぐ」連用）。

Q32. 次の傍線部「過ぐ」の活用形は、ア～カのどれか。

かくて時過ぐらむ。 答え：ウ 解説：直後が現在推量「らむ」。終止形（上二段「過ぐ」終止）。

Q33. 次の傍線部「過ぐる」の活用形は、ア～カのどれか。

過ぐる月日のはやさよ。 答え：エ 解説：直後が体言「月日」。連体形（上二段「過ぐ」連体「過ぐる」）。

Q34. 次の傍線部「過ぐれ」の活用形は、ア～カのどれか。

盛り過ぐれば、花も散る。 答え：オ 解説：直後が「ば」で確定。已然形（上二段「過ぐ」已然「過ぐれ」）。

Q35. 次の傍線部「落ちよ」の活用形は、ア～カのどれか。

「とく木より**落ちよ**」と言ふ。 **答え：カ** **解説**：文末で命じている。命令形（上二段「落つ」命令「落ちよ」）。

Q36. 次の傍線部「助け」の活用形は、ア～カのどれか。

人を**助け**む心ざし、深し。 **答え：ア** **解説**：直後が意志の「む」。未然形（下二段「助く」未然「助け」）。

Q37. 次の傍線部「助く」の活用形は、ア～カのどれか。

弱きを**助く**べし。 **答え：ウ** **解説**：直後が当然の「べし」。終止形（下二段「助く」終止）。

Q38. 次の傍線部「助くる」の活用形は、ア～カのどれか。

人を**助くる**こと、まれなり。 **答え：エ** **解説**：直後が体言「こと」。連体形（下二段「助く」連体「助くる」）。

Q39. 次の傍線部「助くれ」の活用形は、ア～カのどれか。

人**助くれ**ど、報いを求めず。 **答え：オ** **解説**：直後が「ど」。已然形（下二段「助く」已然「助くれ」）。

Q40. 次の傍線部「助けよ」の活用形は、ア～カのどれか。

「我を**助けよ**」と叫ぶ。 **答え：カ** **解説**：文末で命じている。命令形（下二段「助く」命令「助けよ」）。

Q41. 次の傍線部「あら」の活用形は、ア～カのどれか。

よもさることは**あら**じ。 **答え：ア** **解説**：直後が打消推量「じ」。未然形（ラ変「あり」未然「あら」）。

Q42. 次の傍線部「あり」の活用形は、ア～カのどれか。

ここに人ありけり。 答え：イ 解説：直後が過去「けり」。連用形（ラ変「あり」連用「あり」）。

Q43. 次の傍線部「ある」の活用形は、ア～カのどれか。

心ある人に見せばや。 答え：エ 解説：直後が体言「人」。連体形（ラ変「あり」連体「ある」）。

Q44. 次の傍線部「あれ」の活用形は、ア～カのどれか。

命あれば、また逢ふ。 答え：オ 解説：直後が「ば」で確定（命があるので）。已然形（ラ変「あり」已然「あれ」）。

Q45. 次の傍線部「せ」の活用形は、ア～カのどれか。

ともかくもせず。 答え：ア 解説：直後が打消「ず」。未然形（サ変「す」未然「せ」）。

Q46. 次の傍線部「し」の活用形は、ア～カのどれか。

旅の用意をして、出で立つ。 答え：イ 解説：直後が「て」。連用形（サ変「す」連用「し」）。

Q47. 次の傍線部「すれ」の活用形は、ア～カのどれか。

工夫すれど、かなはず。 答え：オ 解説：直後が「ど」。已然形（サ変「す」已然「すれ」）。

Q48. 次の傍線部「せよ」の活用形は、ア～カのどれか。

「はやく用意せよ」と仰す。 答え：カ 解説：文末で命じている。命令形（サ変「す」命令「せよ」）。

Q49. 次の傍線部「静かなら」の活用形は、ア～カのどれか。

夜静かならば、琴弾かむ。 答え：ア 解説：直後が「ば」で仮定（もし静かなら）。未然形（形容動詞「静かなり」未然「静かなら」）。

Q50. 次の傍線部「静かに」の活用形は、ア～カのどれか。

いと静かにものを言ふ。 答え：イ 解説：用言「言ふ」にかかる連用修飾。連用形（形容動詞「静かなり」連用「静かに」）。

【第3部】 応用 (Q51～Q80)

Q51. 次の傍線部「思ふ」の活用形は、ア～カのどれか。

いかにせむと思ふらむ。 答え：ウ 解説：直後が現在推量「らむ」。終止形（四段「思ふ」終止）。

Q52. 次の傍線部「思ふ」の活用形は、ア～カのどれか。

人の思ふこと、はかりがたし。 答え：エ 解説：直後が体言「こと」。連体形（四段「思ふ」連体。終止と同形だが体言が続く）。

Q53. 次の傍線部「咲く」の活用形は、ア～カのどれか。

花の咲くを待つ。 答え：エ 解説：直後が格助詞「を」。「を」の上は連体形（咲くこと、の意）。連体形。

Q54. 次の傍線部「行か」の活用形は、ア～カのどれか。

もし都に行かば、訪ねむ。 答え：ア 解説：直後が「ば」で仮定（もし行くなら）。未然形（四段「行く」未然「行か」）。

Q55. 次の傍線部「見ゆ」の活用形は、ア～カのどれか。

遠く山の見ゆらむ。 答え：ウ 解説：直後が「らむ」。終止形（下二段「見ゆ」終止）。

Q56. 次の傍線部「見ゆる」の活用形は、ア～カのどれか。

かなたに見ゆるは、何の灯か。 答え：エ 解説：直後が「は」だが、ここは「見ゆるもの=は」の準体で連体形。係助詞の前の連体形。

Q57. 次の傍線部「老い」の活用形は、ア～カのどれか。

人みな老いぬ。 答え：イ 解説：直後が完了「ぬ」。連用形（上二段「老ゆ」連用「老い」）。

Q58. 次の傍線部「越ゆ」の活用形は、ア～カのどれか。

この坂を越ゆべし。 答え：ウ 解説：直後が「べし」。終止形（下二段「越ゆ」終止）。

Q59. 次の傍線部「越ゆれ」の活用形は、ア～カのどれか。

関を越ゆれば、国変はる。 答え：オ 解説：直後が「ば」で確定。已然形（下二段「越ゆ」已然「越ゆれ」）。

Q60. 次の傍線部「美しき」の活用形は、ア～カのどれか。

いと美しき児（ちご）なり。 答え：エ 解説：直後が体言「児」。連体形（シク活用形容詞「美し」連体「美しき」）。

Q61. 次の傍線部「美しう」の活用形は、ア～カのどれか。

花、美しう咲きにけり。 答え：イ 解説：用言「咲く」にかかる連用修飾（ウ音便）。連用形（形容詞「美し」連用「美しく→美しう」）。

Q62. 次の傍線部「死な」の活用形は、ア～カのどれか。

よも**死な**じ。 **答え**：ア **解説**：直後が打消推量「じ」。未然形（ナ変「死ぬ」未然「死な」）。

Q63. 次の傍線部「死ぬる」の活用形は、ア～カのどれか。

死ぬることの悲しさよ。 **答え**：エ **解説**：直後が体言「こと」。連体形（ナ変「死ぬ」連体「死ぬる」）。

Q64. 次の傍線部「死ぬれ」の活用形は、ア～カのどれか。

人**死ぬれ**ど、名は残る。 **答え**：オ **解説**：直後が「ど」。已然形（ナ変「死ぬ」已然「死ぬれ」）。

Q65. 次の傍線部「居」の活用形は、ア～カのどれか。

ここに**居**て、待たむ。 **答え**：イ **解説**：直後が「て」。連用形（上一段「居る」連用「居（ゐ）」）。

Q66. 次の傍線部「居る」の活用形は、ア～カのどれか。

そこに**居る**人は誰ぞ。 **答え**：エ **解説**：直後が体言「人」。連体形（上一段「居る」連体「居る」）。

Q67. 次の傍線部「来」の活用形は、ア～カのどれか。

「はやく**来**」と呼ぶ。 **答え**：カ **解説**：文末で命じている。命令形（カ変「来」命令「来（こ）」。「来（こ）よ」とも）。

Q68. 次の傍線部「うれしく」の活用形は、ア～カのどれか。

うれしく思ひて、笑む。 **答え**：イ **解説**：用言「思ふ」にかかる連用修飾。連用形（形容詞「うれし」連用「うれしく」）。

Q69. 次の傍線部「告ぐ」の活用形は、ア～カのどれか。

使ひ、事の由を告ぐ。 答え：ウ 解説：文末で言い切り。終止形（下二段「告ぐ」終止）。

Q70. 次の傍線部「告ぐる」の活用形は、ア～カのどれか。

別れを告ぐる人の声。 答え：エ 解説：直後が体言「人」。連体形（下二段「告ぐ」連体「告ぐる」）。

Q71. 次の傍線部「立て」の活用形は、ア～カのどれか。

「はやく立て」とうながす。 答え：カ 解説：文末で命じている。命令形（四段「立つ」命令「立て」）。

Q72. 次の傍線部「聞か」の活用形は、ア～カのどれか。

その名を、いまだ聞かず。 答え：ア 解説：直後が打消「ず」。未然形（四段「聞く」未然「聞か」）。

Q73. 次の傍線部「聞き」の活用形は、ア～カのどれか。

鐘の音を聞きつつ、ねぶる。 答え：イ 解説：直後が反復・継続「つつ」。連用形（四段「聞く」連用「聞き」）。

Q74. 次の傍線部「すぐれ」の活用形は、ア～カのどれか。

才（ぎえ）人にすぐれたり。 答え：イ 解説：直後が存続「たり」。連用形（下二段「すぐる」連用「すぐれ」）。

Q75. 次の傍線部「静かなれ」の活用形は、ア～カのどれか。

夜静かなれば、虫の音さやか也。 答え：オ 解説：直後が「ば」で確定（静かなので）。已然形（形容動詞「静かなり」已然「静かなれ」）。

Q76. 次の傍線部「行く」の活用形は、ア～カのどれか。

我ぞ先に行く。 答え：エ 解説：係助詞「ぞ」があるので、結びは連体形。係り結びによる連体形。

Q77. 次の傍線部「咲け」の活用形は、ア～カのどれか。

花こそ咲け。 答え：オ 解説：係助詞「こそ」があるので、結びは已然形。係り結びによる已然形。

Q78. 次の傍線部「見る」の活用形は、ア～カのどれか。

月を見ること、夜ごとなり。 答え：エ 解説：直後が体言「こと」。連体形（上一段「見る」連体「見る」。終止と同形だが体言が続く）。

Q79. 次の傍線部「思へ」の活用形は、ア～カのどれか。

よくよく思へ。 答え：カ 解説：文末で命じている。命令形（四段「思ふ」命令「思へ」）。

Q80. 次の傍線部「読ま」の活用形は、ア～カのどれか。

この書を読まばや。 答え：ア 解説：直後が願望「ばや」。未然形（四段「読む」未然「読ま」）。

【第4部】入試 (Q81～Q100)

Q81. 次の傍線部「来」の活用形は、ア～カのどれか。

鳥のここに来て、また飛び去る。 答え：イ 解説：直後が「て」。連用形（カ変「来」連用「来(き)」）。

Q82. 次の傍線部「あら」の活用形は、ア～カのどれか。

よもあらぬことは言はじ。 答え：ア 解説：直後が打消「ぬ(ず)」。未然形（ラ変「あり」未

然「あら」。

Q83. 次の傍線部「す」の活用形は、ア～カのどれか。

いかに**す**とも、かなふまじ。 **答え**：ウ **解説**：直後が「とも」。終止形に接続する「とも」なので、終止形（サ変「す」終止）。

Q84. 次の傍線部「する」の活用形は、ア～カのどれか。

物**する**ついでに、文も書く。 **答え**：エ **解説**：直後が体言「ついで」。連体形（サ変「す」連体「する」）。

Q85. 次の傍線部「過ぎ」の活用形は、ア～カのどれか。

春**過ぎ**て、夏来たるらし。 **答え**：イ **解説**：直後が「て」。連用形（上二段「過ぐ」連用「過ぎ」）。

Q86. 次の傍線部「見え」の活用形は、ア～カのどれか。

雲隠れて、月も**見え**ず。 **答え**：ア **解説**：直後が打消「ず」。未然形（下二段「見ゆ」未然「見え」）。

Q87. 次の傍線部「侍れ」の活用形は、ア～カのどれか。

さること**侍れ**ば、申し上ぐ。 **答え**：オ **解説**：直後が「ば」で確定。已然形（ラ変型「侍り」已然「侍れ」）。

Q88. 次の傍線部「をかしき」の活用形は、ア～カのどれか。

いと**をかしき**ことを言ふ。 **答え**：エ **解説**：直後が体言「こと」。連体形（シク活用形容詞「をかし」連体「をかしき」）。

Q89. 次の傍線部「告げ」の活用形は、ア～カのどれか。

別れを告げけり。 **答え：イ** **解説：**直後が過去「けり」。連用形（下二段「告ぐ」連用「告げ」）。

Q90. 次の傍線部「散ら」の活用形は、ア～カのどれか。

風吹かば、花や散らむ。 **答え：ア** **解説：**直後が推量「む」。未然形（四段「散る」未然「散ら」）。

Q91. 次の傍線部「老ゆ」の活用形は、ア～カのどれか。

人は皆老ゆ。 **答え：ウ** **解説：**文末で言い切り。終止形（上二段「老ゆ」終止）。

Q92. 次の傍線部「老ゆる」の活用形は、ア～カのどれか。

老ゆる身の悲しさ。 **答え：エ** **解説：**直後が体言「身」。連体形（上二段「老ゆ」連体「老ゆる」）。

Q93. 次の傍線部「来れ」の活用形は、ア～カのどれか。

春来れば、花おのづから咲く。 **答え：オ** **解説：**直後が「ば」で確定（春が来ると）。已然形（カ変「来」已然「来れ（くれ）」）。

Q94. 次の傍線部「見」の活用形は、ア～カのどれか。

その様を見て、あはれがる。 **答え：イ** **解説：**直後が「て」。連用形（上一段「見る」連用「見」）。

Q95. 次の傍線部「あり」の活用形は、ア～カのどれか。

いみじきことありとも、驚かじ。 **答え：ウ** **解説：**直後が「とも」。終止形に接続するので、終止形（ラ変「あり」終止）。

Q96. 次の傍線部「思は」の活用形は、ア～カのどれか。

人に知られじと**思は**ば、つつしめ。 **答え**：ア **解説**：直後が「ば」で假定（もし思うなら）。未然形（四段「思ふ」未然「思は」）。

Q97. 次の傍線部「立つ」の活用形は、ア～カのどれか。

波の**立つ**音、絶えず聞こゆ。 **答え**：エ **解説**：直後が体言「音」。連体形（四段「立つ」連体。終止と同形だが体言が続く）。

Q98. 次の傍線部「せ」の活用形は、ア～カのどれか。

な**せ**そ。 **答え**：ア **解説**：「な～そ」の禁止。「な」の下は未然形（カ変・サ変は未然）。未然形（サ変「す」未然「せ」）。

Q99. 次の傍線部「読め」の活用形は、ア～カのどれか。

「この歌を声高に**読め**」と仰す。 **答え**：カ **解説**：文末で命じている。命令形（四段「読む」命令「読め」）。

Q100. 次の傍線部「老い」の活用形は、ア～カのどれか。

いたく**老**いたる翁、杖をつく。 **答え**：イ **解説**：直後が存続「たり」。連用形（上二段「老ゆ」連用「老い」）。

採点・振り返り

部	点数
第1部 基礎 (Q1～Q20)	／20
第2部 標準 (Q21～Q50)	／30
第3部 応用 (Q51～Q80)	／30
第4部 入試 (Q81～Q100)	／20
合計	／100

復習のポイント - 活用形は「直後の語」で決まる。ず・む→未然／て・けり・たり→連用／べし・らむ・とも・。→終止／体言・を・に→連体／ば(確定)・ど→已然／命令の言い切り→命令。 - 四段は終止と連体が同形(行く)。「。」なら終止、名詞が続けば連体。 - 未然+ば=仮定(もし)／已然+ば=確定(～ので)。 - 係り結び：ぞ・なむ・や・か→連体形／こそ→已然形。 - 「な～そ(禁止)」の「な」の下は未然形(カ変・サ変)／連用形(その他)。